

令和 5 年度

事業所名： 孝養ハイツグループホーム 向山

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900025		
法人名	社会福祉法人室根孝養会		
事業所名	孝養ハイツグループホーム 向山		
所在地	〒029-1201 岩手県一関市室根町折壁字向山67番地3		
自己評価作成日	令和5年9月15日	評価結果市町村受理日	令和5年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年10月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して13年になります。利用者は女性のみで9名入所されています。室根山の麓にある特別養護老人ホーム 孝養ハイツを母体施設として、総合的・一体的なサービス提供に努めております。向山ユニットのリビングから花壇や野菜畑が見え、西側リビングに続くデッキからは室根山が一望でき天気の良い日は外気浴を楽しんでいます。春にはお花見、6月には真っ赤なヤマツツジ、秋は紅葉を楽しめる室根山。新型コロナウイルス感染症が未だに終息しておらず、外出や面会の制限、外部との交流もできない状況にあります。しかし外部との交流は控えつつも、それぞれのユニットでのお花見やつつじ見学、紅葉狩り等の外出、個別外出等、気分転換を図れるよう、利用者の皆様に楽しんでいただけるような活動を工夫しております。コロナの感染対策としてワクチン接種の実施、小まめな消毒、水分補給と健康管理に配慮しながら行っており現在まで感染者は1人も出ておりません。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニットの事業所は、観光名所でもある室根山をバックに望み、室根地域の「保健、医療、福祉の丘」として整備された高台に立地している。法人が運営する特養ホーム、短期入所生活介護、グループホーム、デイサービスセンター、居宅介護支援事業所などのほか、隣接して診療所があり、それぞれが相互に連携しながら一団の複合施設として地域に根付いた事業を展開している。家庭的な環境のもとで、食事・入浴・排泄等の日常生活の援助や心身の機能訓練等も行いながら、利用者が可能な限り自立して生活できるような支援体制も整えている。理念である「利用者の笑顔と満足を求めて」をモットーに、桜の花見やつつじ鑑賞のため室根山に出かけたり、利用者に寄り添ってお墓参りなどにも出向いている。職員は、利用者家族の不安や困っていること、要望などについてもしっかりと耳を傾けて対応しており、家族からの信頼も高い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

令和 5 年度

事業所名 : 孝養ハイツグループホーム 向山

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や目につく所に提示しそれぞれの職員が認識し心掛けているが、実践できているかの確認や評価はしていない。	「利用者の笑顔と満足を求めて」とする法人の基本理念と5項目の基本方針の下に、サービスの基本となる運営指針を定めている。運営指針は2年ごとに見直しを行い、本年度は「利用者の生活スタイルに合わせたチームケアの実践」とし、事業計画に定めて職員で共有しながら実践に努めている。	ケアプランの作成・見直しやモニタリング、職員会議の際などに、随時、運営指針（生活リズム、趣味など）の実践状況を確認・共有することを期待します。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	おたより、広報誌を通して施設全体の日常生活状況をお知らせしている。日常的な交流はできていない。	全戸配布の「おたより孝養ハイツ」に当該事業所の情報も含めて提供している。地域の集まりは、コロナ禍の影響により参加は控えているが、市等との打合せや地域の行事には施設長が対応している。地域の方や利用者家族からは野菜や果物のお裾分けがあり、重宝している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の委員に民生委員の方がおり、状況を報告しているが、活かしているかはわからない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して委員の方からの意見や質問等をいただき参考にしている。	運営推進会議は2ヵ月に1回対面で定例開催しており、利用者家族、自治会長、民生委員、警察署、消防署及び市支所職員が委員となっている。運営に関する意見等はないが、介護事故やヒヤリハット事例を報告するなど、情報共有も適宜なされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して福祉課の職員へ情報提供している。コロナ感染症の感染状況、感染対策などの助言をいただき実践している。	普段から電話等で連絡をとったり助言を受けているほか、運営推進会議に出席の際、感染症対策等に関する情報提供を得ている。地域包括支援センターからは利用者の入所関係の調査等に対応するなど、関係機関とは連携を密にしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体で身体拘束ゼロ検討委員会を設けて会議に参加し情報を共有し身体拘束をしない取り組みをしている。玄関の施錠は夜間帯のみである。	身体拘束に係る職員アンケートを年2回実施しているが、不適切ケアの事例はない。スピーチロックについては理解に相違が生じないよう特に留意して研修している。夜8時以降は防犯のため玄関を施錠している。施設内にはセキュリティカメラを4台設置し、事故の防止などに役立てている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：孝養ハイツグループホーム 向山

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束ゼロ検討委員会からのセルフチェックや振り返り等で学ぶ機会としている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を設けていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明ができていないか不安である。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見や要望があれば耳を傾け生活上には活かせるように努めているが、運営の反映と言われると判断できない。	家族とは、面会や通院同行時、郵便物を届けに来所した際等に近況を伝えたり意見等を伺っている。電話対応の話し方について家族から注意されたことから、電話で話しをする際は出来るだけ柔らかい言葉遣いで対応するよう職員に徹底している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長との面談の機会を設けており意見や提案を聞く機会を設けているが反映させているかとなると分からない。管理者は会議等で意見を聞き改善できるところは対応している。	職員会議やミーティング、カンファレンスなどの際に気軽に意見を交わし、相談等をしやすい職場環境となるように努めている。シフト関係で要望が出された際は、人数調整を行い対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料表に基づく定期昇給、勤務実態に応じ一定水準の賞与も支給。年間休日数を確保すると共に希望休や有給休暇の取得ができるよう努めている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：孝養ハイツグループホーム 向山

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新たな資格取得を目指す職員には受講料の補助など職員の資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内グループホーム協会事務所とのメールや会議等で情報を共有している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めはグループホームに慣れていただくことに重点を置いている。合わせて他の利用者様との関係作りにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の言葉に耳を傾け寄り添えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階での対応としては、居宅中心に行っているためグループホームでは対応していない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	困っていることがあれば遠慮なく話して頂ける様な環境を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話の際には近況を報告している。		

令和 5 年度

事業所名 : 孝養ハイツグループホーム 向山

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て行きつけの美容室でのカット、カラーの対応をお願いしている。同級生から手紙が届き返事を書いていただく支援をしている。	コロナ禍後、隣接の特養ホームとは交流ができなくなっているが、ユニット間での交流はできている。美容関係では、利用者1人が家族の協力で行きつけの美容院へ行っている。また2カ月に1度、気仙沼市から理容師の方の訪問もある。また、利用者へ友人等からの手紙が届いた際は、職員がサポートして返事を出すなど、関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	様々な活動の中で(ゲームや歌、調理の準備や洗濯のたたみ物等)一緒に楽しめる時間を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養入所の際は生活状況を詳しく伝え、特養で見かけた時には声をかけている。家族ともお会いする機会があれば声をかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	特に入所間もない利用者は帰宅願望があるため本人の言葉に耳を傾け寄り添う声掛けをしている。	担当職員を決めそれぞれの意向等の把握に努めている。帰宅願望のある利用者には、料理の手伝いなど他のことに興味を持っていただくよう話しかけるなど、上手に対応している。外出など歩きたい利用者には職員が付き添って外出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のフェイスシートや家族からの情報は職員全員で共有しサービスに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当介護士中心に本人のできるところを見極め、継続してほしいことなどはケアプランにも取り上げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン見直しは担当も一緒にモニタリングを行っている。利用者に変化がある時やその都度話し合いプランにいかしている。看護師、薬剤師にも相談し助言をいただいている。	担当職員が3ヵ月ごとにモニタリングを行い、ケアマネが6ヵ月ごとにケアプランを見直している。見直す際は、家族と連絡を取り、ケアプランに反映させている。カンファレンスは日常的に実施している。ケアプランは各職員が共有できるよう、ファイル化して常に関覧できるようにしている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：孝養ハイツグループホーム 向山

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に入力し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスなど他部署の協力もいただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の方々がいらして施設の環境整備を行って下さっている。鉢植えの花を玄関に飾って下さる。近所の方が栽培した野菜等持参され食事に提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望で主治医を決めている。家族対応での通院は口頭で状況により文章やバイタル表等で情報提供を行っている。	かかりつけ医は、入居前と同一としており、家族が通院に同行している。利用者の多くは隣接の診療所を受診し、担当職員が付添っている。受診結果は家族に報告している。受診後、薬は家族に届けていただくことにしているが、医療機関から届けていただく場合もある。整形外科関係は、気仙沼市の医師が、月1回訪問診療で来訪している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル測定は毎日実施している。体調不良や気になる事があれば看護課の看護師に相談し指示を仰ぐ事や訪看時に相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	暮らしのシート(医療連携シート)で入院時には情報提供を行っている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：孝養ハイツグループホーム 向山

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていない。	指針等の作成は無く、看取りには対応していない。看取りについては、入居時に利用者・家族に対してその旨を説明している。体調に変化が生じた際は、看護師が状況の見極めを行い、介護度3以上の方には同じ法人が運営する隣接の特養へ移っていただく場合が殆どである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えてシミュレーションしている。防災自主チェック表で食料の備蓄品の管理を行っている。	隣接の特養と合同で、年2回避難訓練を行っている。避難訓練は、時々火元を変えながら行っている。訓練は、午後3時に実施しており、避難場所は敷地内又は隣接の特養としている。水7日分、カップ麺3日分、缶詰などを備蓄し、発電機は隣接の特養に備えてある。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に応じた対応や言葉掛けや排泄、プライバシーに考慮した対応を行っている。ゆっくりと聞きやすい言葉掛けをしている。	声がけは「さん」づけで丁寧に行っている。利用者間のトラブルの際には職員が仲立ちして対応している。英語が得意な利用者には、中学の英語の教科書を提供している。居室へ入る際は必ずノックと声掛けを忘れないよう徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の希望(外出、美容室、食事等)に沿えるようできる限り対応を行っている。利用者目線で自己決定出来るよう対応を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースで生活していただけるように努めているが、入浴や食事の時間はある程度職員都合で行っている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：孝養ハイツグループホーム 向山

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪に関しては定期的に理髪店にお願いして来設して対応して頂いている。個別での対応で行きつけの美容室へ感染対策を取りながら行かれる方もおります。居室の鏡を見ながら整容、髭剃り等行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	衛生面に注意しながら、利用者と一緒に食事の準備をしたり片付けを行っている。利用者の誕生日には希望食、季節の行事には行事食を提供している。	利用者のリクエストを聞きながら、2日に1回買い物して、職員が調理している。地域の方から食材の提供があった日には利用者の希望を聞いて料理し提供するほか、利用者の好みなども参考にしている。野菜や乳製品、夕食に魚か肉類を調理するなど栄養バランスには配慮している。誕生日には希望も聞いて、ケーキやおはぎなどを準備している。利用者は野菜の皮むきや味見、テーブル拭きなど、好きな場面でお手伝いしながら楽しく食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事については、毎食摂取量、水分摂取量を確認しパソコン入力している。個々に合わせた食事形態、バランスの良い献立、使用した食材のチェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	積極的な口腔ケア、定期的な歯科受診、メンテナンスは出来ていない。一部の方は指示が通らず、思うようなケアが出来ていないが、促すことを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	今のところはオムツ使用している利用者は居ません。排泄チェック表を活用し、個々のパターンを把握し対応をしている。	排泄は、基本的にトイレ使用としている。オムツ使用者はおらず、ほとんどの方がリハビリパンツ又は布パンツ使用である。排泄チェック表を活用し、さりげなく声掛けして対応している。夜間にポータブルトイレを2名が利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量を増やしたり水分、乳製品を増やしたりと工夫しながら声掛けを行っている。排泄チェック表を確認しながら必要時下剤で調整している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：孝養ハイツグループホーム 向山

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴が出来るよう支援している。体調不良時や拒否が見られた場合には、時間をずらしたり、日程を変更して対応している。職員の都合や体調不良、出勤人数によって曜日変更が生じる場合がある。	日曜日を除く週2回、午後の入浴としており、当日入浴を嫌がる利用者は、日や時間をずらすなどして対応している。季節に応じ菖蒲湯やゆず湯などを利用している。音楽をかけてリラックスしたり、職員と会話をしたりして入浴を楽しんでいる。やむを得ず異性介助となる場合には、家族の了解を得ることとしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方、水分摂取量によって睡眠の質が変わるため、日中の過ごし方を工夫している。眠れない方については、水分を提供したりテレビ見ながら過ごして頂く事、話を聞くなどの対応をし希望に添った就寝支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更、追加された場合には体調の変化に注意している。おくすり説明文書で薬の注意事項、相互作用、副作用を確認している。錠剤の飲み込みが悪い場合には薬剤師に相談し粉碎して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課として、テーブル拭きや茶碗拭き、掃除、洗濯物干し、たたみ物、趣味の読書を楽しむ方、散歩、手芸をされる方もおりますが、張り合いや喜びが感じられる生活をしているかと言うと不安がある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節のドライブ、個別外出は実施しているが、日常的な外出はコロナが終息していないため行っていない。	コロナの影響で外出の機会は少なくなっているが、春のお花見、室根山のつつじ鑑賞や秋の紅葉時にはドライブに出かけている。天気の良い日には日光浴したり、近場を散歩したり、敷地内にある畑で家庭菜園などで身体を動かしている。利用者から希望があれば、自宅方面へドライブに行くこともある。利用者の誕生日にドライブすることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を自己管理されている方もいますが、紛失、盗まれた等のトラブル回避のため、ほとんどの方は一括して事務所の金庫で保管し必要時に出している。日常にお金を使う、使える場所がない。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：孝養ハイツグループホーム 向山

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	同級生からの手紙に返事を書いて郵送している方、家族や身元引受人と電話で会話される方、本人希望で電話をされる方もおります。携帯電話を所持されている方は自由にかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に合わせての空調の調整、玄関やデッキに草花、室内には季節に合わせての装飾を利用者と共同で行い工夫、日常の風景や活動時に撮影した写真を掲示している。	リビングは、エアコンで温度調整され過ごしやすくように配慮されている。広さは利用者全員が十分くつろげるスペースが確保され、全員がそろって食事ができる机も配置されている、また、職員と利用者が作った作品や利用者の日々の活動の様子を撮影した写真などが壁に掲示されるなど、居心地よく過ごせる工夫がなされている。季節に応じた花も綺麗に飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2カ所にリビングがあり、玄関には長椅子があり利用者の希望に添って対応。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には収納量の多いクローゼットが設置されているが使い慣れた、馴染みのある家具などを持参していただき配置しているがコロナ以降は家族の方が部屋に入室する事はなくなっている。居室には家族写真、活動時、誕生会の写真、色紙を飾っている。	室内には、ベッド、洗面台、大型のクローゼットが備えつけられ、暮らしやすいよう配慮されている。壁には家族の写真や誕生会での記念写真、色紙などが綺麗に飾られているほか、時計やカレンダーなど馴染の物を持参するなど、過ごしやすいように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札に名前を書いて解るような工夫をしている。必要時手摺りを設置して安全に移動できるよう対応している。		